

家庭医療専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 西伊豆健育会病院院長 仲田 和正

西伊豆健育会病院が位置する伊豆半島西海岸は、県内でも特に高齢化が進んでいる地域です。当院は地域唯一の急性期病院で、入院施設は当院だけであり、開業医・診療所の医師および介護施設と連携しながら「地域」を支える医療を実践しています。

三次救急病院までは峠を越えて車で60分以上かかるため、「救急患者は断らない」ことを基本方針の一つとし、内科系から外科系まで専門科に関係なく総合的に診療し、家庭医としての臨床能力を高めることができます。また急性期医療から在宅医療まで一貫した地域医療と、「患者だけでなく家族全員を診る」ことで、地域のかかりつけ病院としての機能も学ぶことができます。

当院には一家で受診する患者が多く、一家の健康管理に責任をもつ「かかりつけ医(家庭医)」を育む環境も整っています。さらに生活環境などをよく知っているため、いざ病気になった場合に的確な診断ができる、家族と医師との間に相互信頼という人間関係の大切さも学ぶことができます。

最後に、本プログラム責任者として、僻地であっても活発な勉強会を実施し、互いに教えあう風土は医師としての一生の勉強習慣を育む貴重な3年間となることを確信しています。このプログラムを通じて、総合力を身に付けた家庭医療専門医を一人でも多く輩出し、また後輩を指導できる医師を養成したいと考えています。

2 目的

本研修プログラムでは、「患者さんを疾患で診るのではなく、患者さんの人生を見て、そこから治療方針を決めていく」ことを目的とします。研修終了後に、皆さんは患者さんに標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防に努めるとともに、将来の静岡県の医療、ひいては日本の医療の発展に貢献できる総合診療専門医となることを目指します。

具体的には以下の4つの資質を備えた総合診療専門医の育成を目指します。

1. 医師としての倫理観や説明責任はもちろんのこと、プライマリ・ケアの専門家である総合診療医としての専門性を自覚しながら日々の診療にあたることができる。
2. 安全管理（医療事故、感染症、廃棄物、放射線など）を行うことができる。
3. 地域の現状から見出される優先度の高い健康関連問題を把握し、その解決に対して各種会議への参加や住民組織との協働、あるいは地域ニーズに応じた自らの診療の継続や変容を通じて貢献できる。
4. へき地・離島、被災地、都市部にあっても医療資源に乏しい地域、あるいは医療アクセスが困難な地域でも、可能な限りの医療・ケアを率先して提供できる。

西伊豆健育会病院が位置する西伊豆地区は、県内でも特に人口減少・高齢化が進んだ地域で、医療資源及び医療アクセスの点で恵まれた地域ではない。その中でできるだけ地域のニーズに応じた医療の提供を行える医師を養成します。

3 目標

本プログラムでは都市部だけでなく僻地の医療も担えるような総合診療医を養成することをミッションとします。

「患者を診る」ことを基本とし、具体的な研修目標は以下の8項目です。

【全体的な研修目標】

1. 初期研修で習得したプライマリ・ケアの基礎知識と技術をさらに深める。
2. 臓器、領域にかかわらず頻度の高い疾患について自ら診断し、治療計画を立てて実施できる。
3. 急性期から慢性期にわたり心理・社会的問題を考慮し、患者や家族の意志を尊重した継続的な医療を提供できる。
4. 多職種との連携を通じ、緩和ケア、高齢者のケア、在宅医療など、包括的な医療サービスを提供できる。
5. 地域の介護、福祉等の支援ネットワークにおいて、各分野のスタッフと連携し良き調整役として機能する。
6. 自ら生涯学習を行う習慣を身に着け、エビデンスを咀嚼して診療に応用することができる。
7. 家庭医療、総合診療の観点で、初期研修医への教育を行うことができる。
8. 経験したケースについて深く掘り下げ、プライマリ・ケア関連の学会や研究会で発表する。

4 研修カリキュラム

1年目：領域別研修 内科（6ヶ月）、救急科（3ヶ月）、小児科（3ヶ月）

【内科】

協力施設は県内では静岡県立総合病院、県外では協立総合病院の、どちらかを選択して研修を行います。静岡県立総合病院では一般内科、各領域別内科で急性期を中心に幅広く外来、病棟診療が経験できます。その際プライマリ・ケアで必要な検査（超音波、内視鏡）についても一定の研修が受けられ、初期研修終了後の仕上げの内科研修となるよう配慮しています。協立総合病院でも同様の研修を受けることが可能です。

【救急科】

協力施設は3施設、静岡県立総合病院、協立総合病院と名古屋掖済会病院のいずれかを選択して研修を行います。静岡県立総合病院は平成27年3月31日に「高度救命救急センター」に指定され、重篤な症例についても対応可能となりました。また10床の救急観察入院ユニットが整備され指導医の下、診療精度を上げ豊富な救急症例を経験できます。協立総合病院では内科系、外科系、小児系を問わず多くの疾患、病態を経験できます。また、名古屋掖済会病院ではER型の救命センターで救急外来専従の救急専門医の下、心筋梗塞、脳卒中、多発外傷、薬物中毒、熱傷等や四肢切断再接着等の四肢外傷および他の救急疾患を経験できます。救急領域で役立つ超音波検査を適切に行う能力、救急診療に必要な単純X線検査、CT検査の読影能力を養う機会があります。

【小児科】

上記、救急科研修と同じ3施設で研修を行います。対象は中学生まで、症例は子供の内科的な病気（肺炎・髄膜炎・胃腸炎などの感染症や喘息、けいれん、乳幼児の皮膚炎、アトピー性皮膚炎、腎炎等）の全てが対象です。また発育や発達が遅れている、身長が伸びないなどの相談などにも対応し、一般的な疾患を中心に指導医の下、地域のかかりつけ病院として、家庭医療的な小児科診療を学ぶことを目的としています。

2年目：総合診療専門研修Ⅱ（6ヶ月～1年間）、その他（6ヶ月）

総合診療専門研修Ⅱは、期間は6ヶ月～1年となります。例えば当院における総合診療専門研修Ⅱを6ヶ月とした場合、残り6ヶ月を領域別研修その他とすることが可能ですが、

3年目の総合診療専門研修Ⅰを1年間となります。

2年目：総合診療専門研修Ⅱ（6ヶ月～1年間）、その他（6ヶ月）

総合診療専門研修Ⅱは、期間は6ヶ月～1年となります。例えば当院における総合診療専門研修Ⅱを6ヶ月とした場合、残り6ヶ月を領域別研修その他とすることが可能ですが、3年目の総合診療専門研修Ⅰを1年間となります。

【総合診療専門研修Ⅱ】

西伊豆健育会病院で行います。内科に所属しながら、総合的な診療能力を備えた医師の下でプライマリ・ケアから二次救急まで幅広い研修を受けることができます。

外来診療では初診患者と再診患者の対応を行い、common diseaseの診断や外来フォローアップを身に付けることができます。救急に関しては年間1,000件近い救急車の受入れがあり、救急外来でも数多くの症例を経験できます。病棟診療では、各診療科間の垣根が低くコンサルテーションし易く、看護部、コメディカル部門とのコミュニケーションもスムーズに行われています。毎週、実施されている医師別カンファレンス及びリハビリカンファレンス通じて、患者の健康問題を検討する場があり、患者の包括ケアと癌・非癌患者の緩和ケアを含んだ総合的診療を経験できます。また地域連携機能を把握し円滑な退院支援に繋げると共に、在宅患者の入院時対応も積極的に行います。

【領域別研修その他】

専攻医が希望する診療科を6ヶ月間研修できます。整形外科と泌尿器科は当院、および皮膚科は伊豆の国市の順天堂大学附属静岡病院にて研修が可能です。

3年目：総合診療専門研修Ⅰ（6ヶ月～1年間）。期間は6ヶ月～1年で選択可能です。

【総合診療専門研修Ⅰ】

原則、西伊豆健育会病院で研修を行います。外来診療、慢性期医療、家族指向型ケア、訪問診療、地域保健活動を含み、地域密着型病院にて地域のニーズに合った総合力を身に付けることができます。地域柄、同一家族の構成員全員が受診していることも多く、生活習慣病の患者教育は本人だけでなく家族にも行います。

訪問診療については専攻医に担当地区が割り当てられ、担当患者を月2回の割合で訪問し、在宅緩和ケアや看取りのスキルを身に付けます。

診療所研修は西伊豆町にある田子診療所で研修が可能であり、熟練された医師の下、当院とはまた違った視点で地域住民と関わることができます。

近隣の介護施設や福祉施設との連携強化に努め、介護と福祉について見識を深め、更に地域の学校医として園児から中学生までの健診および予防接種の実施、地域の保健活動の一環として、学校保健室での講演を含め、地域包括ケアについて主体的に関与することになります。

5 研修病院群

【専門研修基幹施設】西伊豆健育会病院

【専門研修連携施設】・静岡県立総合病院、順天堂大学医学部附属静岡病院

・名古屋掖済会病院（名古屋市）、協立総合病院（名古屋市）

6 研修期間

【モデルとなるローテーション例】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	内科	内科	内科	内科	内科	内科	救急科	救急科	救急科	小児科	小児科	小児科
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	その他	その他	その他	その他	その他	その他
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総診Ⅰ											

【プログラムの全体構成（月単位の換算による）】

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12)カ月				総合診療専門研修Ⅱ (6)カ月			
領域別 研修	内科 (6)カ月	小児科 (3)カ月		救急科 (3)カ月		その他 (6)カ月		